

都市への想いは国境を越えて —ニューメキシコ大学との交流—

text_yahara

客員教授であるリース先生の所属するニューメキシコ大学から教授と学生が来日し、5月17、23日の2日にわたり、デザ研メンバーとの交流の場が持たれた。

17日は、それぞれの研究内容やプロジェクトの発表の後、夜には会食も行われた。来日した面々は考古学からランドスケープ学、博物学と専門が幅広く、お互いにプロジェクトに興味を持ち、国境を越えて話を弾ませていた。



左/802会議室にて各々の研究・プロジェクトを紹介 中央/リース先生から蔵書をいただく西村先生右/ニューメキシコ大学のメンバー。ユーマア交えた発表と、デザ研のプロジェクト発表に熱心に聞き入る

14号館10階にて記念撮影



23日には、来日メンバーが東京を見学しての感想と疑問を発表し、デザ研メンバーと議論する場が持たれた。その中で「日本の登録文化財制度が弱いのではないか」、「表参道の商業ビルは近隣に配慮していないのではないか」等の指摘が飛び交い、助教に劣らずデザ研の学生達も積極的に議論に参加していた。

短い時間ではあったものの、互いに打ち解け再会を誓うなど新たな研究室のつながりができた、実りある交流の機会となった。

東京を創った男・後藤新平 西村先生と共に辿る功績

M1 大道亮

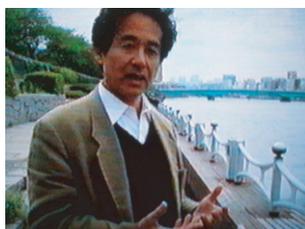
5月20日の夜、NHK教育テレビのETV特集に、西村先生が出演された。題材は後藤新平。先生のナビゲーションで私も後藤新平の足跡をたどり、彼の構想力と先見の明に改めて驚かされた。

番組中で先生がおっしゃったように、現在特段意識することなく通っている道や橋も、新平の不断の努力によって築かれたものが多い。新平の計画がなかったら、今の東京はどれだけ病んだ都市になっていたのだろうか。想像もつかない。新平の目は確実に50年後、100年後を捉えている。

新平の死から80年経とうとしている今、彼が残したものにも綻びがはじまっている。

震災復興で区画整理されたエリアは、機能こそあれ情緒のない街並みになってしまった。最近の建築物の高層化が無機質化に拍車をかけているのかもしれない。

新平が残した成果と課題は私たちが引き継ぐことになる。私たちが50年後、100年後を親る目を持って都市に臨みたい。



メルボルン大との 協同ワークショップに参加

M1 鈴木惇也

院試の面接にて英語が大幅に改善の余地ありと言われ、院でのテーマは海外経験を積むことに。日本と韓国しか知らない僕にはすべてが新鮮でした。

メルボルン大の生徒もアイデアを出すことに真剣で柔軟であり、西村先生のおっしゃる「日本の常識は世界の常識ではない」ことも体験できました。

新年度スタートの時期に不在という形になり研究室の皆様には大変なご迷惑をおかけしましたが、おかげ様で貴重な経験を得ることができました。ありがとうございました。

しかしこのままの英語力だと「こいつ本当に働いてきたのか」と思われてしまうので、勉強するとともにこのような機会がまたあればぜひ参加させて頂きたいと思っておりますので、何か話がありましたら教えてくださいませ。



4月27日そして5月8日、21日、802会議室において研究室会議が行われた。発表者は博士課程4名、M2 8名の計12名。いずれも本年度初の研究発表であり、両教授はもちろん、助教陣や博士からも意見が飛びかい、論文執筆の方向性を固める上で有意義なものとなった。

発表題目は以下の通り。

■4月27日研究室会議

- Dr. 韓昊英 「Implementation Strategies for Urban Growth Management in China - a Case Study of Beijing」
- M2鄭一止 「住民まちづくりによる歴史的街並みづくりへの可能性に関する研究 - 韓国ソウル北村地域の韓屋まちを事例にして -」
- Dr. 田中暁子 「シャルル・ピュルスの都市設計思想 1881-1914 - ブリュッセル旧市街地における都市保全手法」
- Dr. 永瀬節治 「<参詣都市>の近代における空間構造の変容と景観形成 (仮)」

■5月8日研究室会議

- Dr. 岡村祐 「わが国における眺望景観保全施策の体系化とその運用実態に関する研究」
- M2石井宏典 「小豆島・醬の郷 (ひしおのさと) のまちづくりの研究 - 登録文化財制度を利用した工場施設群の保全事例」
- M2伊藤雅人 「都市ウォーターフロントにおけるオープンスペースに関する研究 - 東京都臨海部をケーススタディとして」
- M2奥田紘子 「大規模開発に伴って創出される公園および公園的空間の公共性に関する研究」
- M2塩澤諒子 「近代以降の広場空間認識に関する史的 연구」

■5月21日研究室会議

- M2ファズリ・ビンズビ 「Designing for a New Urban Image: A Study on Odaiba Waterfront City's Design Approach」
- M2ポンサン・ウェティエンプラッド 「日本における常設屋台の系譜とまちづくりへの展開に関する研究 (仮)」
- M2吉田拓 「品川宿を含む品川エリアの空間構造及びその変遷について」

※本年度より研究室会議議事録がブログ化されています。質疑応答の概略など、より詳しい情報を得たい方はこちらをご覧ください。
<http://blog.goo.ne.jp/urbandesign/>

塩澤新編集長 誕生



先代の坂内編集長から引き継ぎを受け、今号から塩澤M2がマガジン新編集長となりました。編集長としての抱負は「発行ペースを守る!」「生の声はそのまま届ける!」「誤字脱字に気をつける!」との事。編集部員も倍増し、英語版発行も開始した当マガジンは今後益々の充実を目指します。

編集後記

都市工学という広大で終わりのない大地に足を踏み入れてから、早2ヶ月が経ちました。毎日が新しい発見と勉強の連続で、五月病にかかる暇もないままジメジメとした季節に突入…。9階研究室は本当に暑いですね。真夏はどうなることやら。人にも機械にもやさしい環境づくりをしなくてはなりませんね。多種多様な不安を抱えたままですが、自分の納得いく方角目指して進んでいきます。今はまだスタートライン付近をぐるぐる回ってる感が否めませんが、マガジンの編集部員としての大切な任務も、余裕をもってスイスイとこなせるようになる頃には、ちょっとは成長してますように。

月末からの米留学を前にして、5月23日、宋珍和D2の壮行会が開かれた。イベントは主役の秘密裡に企画。何も知らされないまま会場に連れてこられた宋さんは、しばしの別れを惜しむために集まった20人余りのメンバーに驚き、続いて感激を静かに滲ませた。2時間あまりも盛り上がった会の中で、野原・中島両助教や同期の永瀬D2からは熱い激励が、さらに参加メンバーか全員からは色紙とささやかなプレゼントが送られた。

留学先のSouth Carolina州・Charlestonは歴史的建造物が多く残る美しい都市。3ヵ月後の帰国時には、ぜひ山盛りのお土産話を聞かせていただきたいものです。



楊M2から、皆からのメッセージを集めた色紙とプレゼントを手渡される宋さん。会は楽しく幕を閉じました。

진화언니께

어느덧 언니와 만남지도 벌써 2년이 다되어가는군요. 언니가 처음 일본에 왔을 때, 제가 도와줄 수 있었던건, 학부수업 등의 학교생활, 그리고 학교근처 맛있는 음식점 등에 관해서 알려주는 정도였죠.

그러나, 역시나 한국에서 석사과정을 마치고 온 박사과정 선배로써 언니는, 제 논문에 관한 상담, 학위취득 후의 취업에 관한 얘기 등 인생의 선배, 도서관학도 선배로써 소중한 말씀을 해주셨죠. 물론, 이러한 도움을 받은 사람은 저뿐만이 아니라고 생각합니다.

그리고 역시나 이번에도 저의 기대를 저버리지 않고, 3개월이라는 길면 긴 기간동안 세계를 향하는 새로운 길을 걸어가게 되었네요. 미국뿐만 아니라 세계의 문화유산을 대상으로 한 보전활동의 현장을 많이보고, 직접 활동하다가 돌아오리라 믿습니다.

그러면, 언제나처럼, 몸건강히 지내세요.

일지울림

※同じ韓国からの留学生として、イルジさん(M2)からハングルのメッセージをいただきました!

宋さんへ、
いつのまにかお姉さんと会ってから、もう2年も立ちましたよね。初めに宋さんが来た頃、私が手伝ってあげたのは、学部の授業などに関する学校生活について、そして学校近所にある美味しいお店について、教えるくらいでした。
しかし、さすが韓国で修士課程を終えてから来た博士課程の先輩として宋さんは、私に論文の書き方や、卒業後の就職などについて、人生の先輩、都市工学の先輩として、貴重なお話をしてくれました。もちろん、お世話になったのは私だけではないと思いますけど。
そして、ご期待に背かないで、3ヶ月という長いと言えば長い間、世界に向く新たな道を歩くことになりました。アメリカだけではなく、世界の文化遺産を対象にする保全活動の現場をたくさん見て、実際活動することを信じています。
それでは、いつものようにお元気で行っていらっしやい。

イルジ